

[03/04]韓国研究センター年報

<https://hdl.handle.net/2324/2198471>

出版情報：韓国研究センター年報. 3/4, 2004-03-15. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



世界の Korean Studies, 日本の Korean Studies

九州大学韓国研究センター長 石川 捷治

韓国研究センター主催の国際シンポジウムが2003年11月29、30日の2日間、九州大学箱崎キャンパスや福岡市早良区西新の九州大学国際研究交流プラザを会場に開かれました。このうち1日目は「世界の Korean Studies、日本の Korean Studies」をテーマに、世界と日本における韓国研究の現状と展望について講演や討論が行われました。会場では、韓国と福岡とをインターネットで結び、スクリーン越しに意見を交わす試みもあり、集まった市民や学生たちは、国内外の第一線で活躍する韓国研究者たちの議論に熱心に耳を傾けていました。

基調講演は、日本の韓国語研究の第一人者である梅田博之・麗澤大学長が、日本における韓国語研究の歴史を紹介、日本の韓国語教育の現状なども報告しました。梅田学長は、韓国の日本語学習人口が世界全体の約45%を占め世界第1位であるのに対し、日本では韓国語を学習する人がまだ少数であることを問題視し、「言語文化の受容も相互主義を原則とすべきであり、相互主義のうえに交流や理解が成り立つ」と日本側の今後の課題を指摘しました。

続いて、韓国国際交流財団の李仁浩理事長が、日本での韓国研究の意義について特別講演し、日韓相互の研究は友好のためだけでなく自身の国家と社会に対する新しい理解の幅も広げるとの考えを示しました。また、「朝鮮半島と九州は地理的にも隣接しており、古くから人的交流が盛んだった」と述べ、九州の文化的仲介者としての立場や役割を強調しました。

後半はシンポジウム形式で、UCLA韓国研究センターのジョン・ダンカン所長とオックスフォード大学のジェームス・ルイス先生が、米国と欧州それぞれの韓国研究の状況を報告し、松原孝俊・九大韓国研究セ

ンター教授の司会の下、李相億・ソウル大学校教授（九大韓国研究センター客員教授）と服部民夫・東京大学教授がそれぞれコメントを加えました。討論は全て韓国語で行われ、韓国からは、崔章集・高麗大学校亜細亜問題研究所長が先述のインターネット回線を使って、議論に参加しました。このインターネット討論は、九大大学院システム情報科学研究院の荒木啓二郎教授をはじめとする本学 P&P 「IT を活用した日韓学術支援」プロジェクトの技術提供で実現しました。

開会の前には、韓国「慶南国楽団」の特別文化公演もあり、鮮やかな衣装での舞踊や音楽がシンポジウムに華を添えていました。



麗澤大学 梅田博之 学長



九州大学韓国研究センター
松原孝俊 教授



シンポジウム風景



アジアのなかの韓国伝統文化

九州大学大学院人文科学研究院教授 濱田 耕策

2003年11月30日、韓国研究センター「社会ネットワーク部門」は本学大学院人文科学研究院と比較社会文化研究院からなる文部科学省21世紀COEプログラム「東アジアと日本：交流と変容」のユニット2「交流と変容の研究」班の共催を得て、上記の日韓シンポジウムを開催した。社会ネットワーク部門では、2000年12月にも日韓シンポジウム「韓国伝統文化と九州」を開催し成果をあげ、研究交流を継続してきていることから、本年度は韓国の伝統文化の多様性を広くアジアの文化として理解することを課題とし、下記の3つのテーマからなるシンポジウムを企画し、韓国及び国内から思想史、韓国漢文学、印刷文化史の分野の優れた研究者を招き、また本学の同学の研究者とともに、アジア学としての韓国学を理解し、その研究と教育の進展を図った。

まず、第1部「韓国儒教の形成とその特質」では、韓国では儒教を古代の新羅代に唐から受容し、また中世の高麗代には宋・元との交流のなかで新儒教を受け入れ、朝鮮朝代には百家鳴争の如く儒教が隆盛した。この儒教受容史を踏まえて、疋田啓佑先生（福岡女子大学名誉教授・九州退溪学研究会々長）は「高麗末の儒学思想と政治」のテーマにおいて、高麗末から朝鮮朝への革命期における朱子学の受容を文献に即してその実相を説明された。また、山内弘一先生（上智大学文学部教授）は「朝鮮王朝後期の知識人と華夷思想」と題し、朝鮮朝後期に至って宗族制の礼と秩序が深く社会に浸透するにつれ、経書のなかに朝鮮を「中華」と見なし得る正当性を求めた朝鮮の儒者の学説を分析された。

第2部「朝鮮王朝時代文学の特質」では、儒学隆盛の一方で、中国文学の主題や風刺が楽しまれた朝鮮朝の文学を照射した。沈慶昊先生（高麗大学校文科大学漢文学科教授・京都大学招聘教授）は「朝鮮（李朝）後期漢文学の一特徴－袁宏道の理解を中心に－」のな

かで、18世紀後半期に至ると、それまでの中国文学の受容傾向が大きく朝鮮の民族文学の高揚に変化する過程に明代の袁宏道の文学論が影響していることを説かれた。また、野崎充彦先生（大阪市立大学文学部教授）は、士大夫のみならず朝鮮朝後期に躍動する庶民や女性の生活相を平易な漢文体で描いた説話集である「朝鮮野談」の特質を朝鮮文学史のなかに位置づけて紹介された。

第3部「韓国の印刷・図書文化」では、韓国の儒教や文学の隆盛を支えた書の刊行とその精華をめぐる、日韓の現状の報告を得た。南権熙先生（慶北大学校社会科学大学文献情報学科教授）は、豊富なフィールド調査に基づいて、朝鮮朝時代の嶺南（慶尚道）地方で刊行された多彩な書籍と活字から成る「嶺南地方の出版文化」を詳細に紹介された。また、藤本幸夫先生（富山大学人文学部教授）も長年の日本国内における調査から、朝鮮本の伝来を時期区分されその特質と現存本が朝鮮書誌学の研究の基準となり得る多くの特徴を保持していることを強調された。

会場には朝鮮学の研究者にかぎらず、中国学や国文学の研究者、大学院生が本学の内外から多数参加し、報告について多方面からの射た質疑を得て、シンポジウムは進行した。



総合討論に臨む各報告者

地域政治の日韓比較



九州大学大学院法学研究院 助教授 出水 薫

「シンポジウム地域政治の日韓比較」は「RCKS 国際シンポジウム2003」の分科会として、2003年11月30日に九州大学国際ホールでおこなわれた。この分科会は九州大学P&Pプログラムに採択された「地域政治の日韓比較研究」プロジェクトの成果報告会を兼ねたものであった。

「九州大学P&Pプログラム」とは「九州大学として、一定の期間研究費等の重点配分を行い、本学の教育と研究の一層の発展を図ることを目的とする」(<http://www.kyushuu.ac.jp/Qdai-only/p&p/p.p.htm>) 九大内の研究支援プログラムである。われわれのプロジェクトは2002年度から3年間にわたり支援を受けることになっており、地域（自治体）の政治過程について日韓での比較研究をおこなうことを目的としている。

シンポジウムは、当初出席が予定されていたプサン

大のカン・ジェホ（姜再鎬）先生が出席できなくなるトラブルがあったが、予定どおりおこなわれた。司会をセンター長の石川教授が担当し、まず九大農学研究院の佐藤助手から研究プロジェクトの紹介がおこなわれた。そして法学研究院の藪野教授から日韓の分権をめぐる状況について報告がおこなわれ、私（出水）のコメントの後、フロアとの質疑応答がおこなわれた。

午前の分科会にもかかわらず、会場には前日の全体会に参加なさった東京大学の服部教授をはじめ、多くの研究者が参加した。また学生・大学院生、さらに一般市民も参加するなど盛況であった。参加者は50名ほどであった。

われわれのプロジェクトは、来年度韓国で2回のシンポを開催し、さらに韓国研究センター国際シンポジウムでも再度、分科会を設置する予定である。



日韓の分権について報告する藪野教授



フロアからの質疑に応じる報告者たち

◎ 2003年シンポジウム プログラム ◎

1日目 11月29日(土)

於：九州大学国際研究交流プラザ

●総合司会：深川博史(九州大学教授)

●開場時間：午前11時30分

13:00～

第1部 開会

石川 捷治 九州大学韓国研究センター長挨拶

第2部 「韓国研究センターの過去5年間にわたる研究活動報告」

石川 捷治(韓国研究センター長)による活動報告

服部 民夫(東京大学教授)による外部評価

14:00～

第3部 シンポジウム

「世界の Korean Studies, 日本の Korean Studies」

基調講演：梅田 博之(麗澤大学長)

特別講演：李 仁浩(韓国国際交流財団理事長)

シンポジウム(韓国語)

「世界の Korean Studies の現状」

報告者：John Duncan(UCLA 韓国研究センター長)

James Lewis(オックスフォード大学

Wolfson College フェロー)

コメンテーター：

李 相億(ソウル大学校教授、九州大学韓

国研究センター客員教授)

崔 章集(高麗大学校亜細亜問題研究所長)

松原 孝俊(九州大学教授)

17:30～19:00 懇親会

2日目 11月30日(日)

於：九州大学国際ホール 九州大学法学部大会議室

10:00～12:30

(於：九州大学国際ホール)

シンポジウム

「地域政治の日韓比較」

報告者：姜 再鎬(釜山大学校教授)

佐藤加寿子(九州大学助手)

出水 薫(九州大学助教授)

藪野 祐三(九州大学教授) ほか

13:00～17:30

(於：九州大学国際ホール)

シンポジウム

「アジアのなかの韓国伝統文化－朝鮮朝の知－」

報告者：沈 慶昊(高麗大学校教授)

疋田 啓裕(福岡女子大学名誉教授)

山内 弘一(上智大学教授)

藤本 幸夫(富山大学教授)

南 権熙(慶北大学校教授)

野崎 充彦(大阪市立大学教授)

濱田 耕策(九州大学教授)

14:00～18:00

(於：九州大学法学部大会議室)

シンポジウム

「グローバル時代の日韓の法制－変容と展望」

報告者：李 銀榮(韓国外国語大学教授)

李 根寛(九州大学助教授)

五十川直行(九州大学教授) ほか

■主 催：九州大学韓国研究センター

■共 催：韓国国際交流財団、九州大学アジア総合研究センター、九州大学P&P「ITを活用した日韓学術支援」(平成14年度～16年度)、21世紀COEプログラム「東アジアと日本：交流と変容」ユニット2：交流と変容の研究、九州大学大学院法学研究院、九州大学P&P「地域政治の日韓比較研究」(平成14年度～16年度)

■協賛団体：財団法人福岡県国際交流センター、財団法人アジア太平洋センター

■協 力：日本学術振興会日韓拠点大学方式による学術交流「インターネット基盤技術の高度化に関するシステムの実証及び調査研究」総務省e!プロジェクト「国際文化分野におけるITの新活用」、高麗大学校ITRC次世代インターネット研究センター、高麗大学校亜細亜問題研究所